

(仮称) 蘇我火力発電所建設計画に係る環境影響評価方法書

(平成30年2月16日諮問)

論点整理 (たたき台)

事業計画等	・・・・・・・・・・・・・・・・	p 2
環境影響評価項目の設定	・・・・・・・・・・・・・・・・	p 6
調査・予測及び評価の手法	・・・・・・・・・・・・・・・・	p 7

<修正履歴>

平成30年4月20日 第1版 (事務局事前確認、委員指摘事項)

※ 当該資料は、検討の途中段階における論点を整理したものであり、今後の検討状況によって、内容に変更が生じる可能性があります。

ページ	方法書の記載概要	指摘事項等
2.2-9 2.2-10 2.2-11	<p>事業計画等</p> <p>○事業の概要</p> <p>(1) 事業者の名称：千葉パワー株式会社</p> <p>(2) 事業の種類：火力発電所の設置 (第1種事業)</p> <p>(3) 発電設備の原動力の種類：汽力（石炭及び副生ガス）</p> <p>(4) 発電設備の出力：約107万kW</p> <p>(5) 対象事業実施区域及びその面積 所在地：千葉市中央区川崎町1番地 面積：約63万平方メートル</p> <p>○事業特性</p> <p>・ばい煙に関する事項</p> <p>・復水器の冷却水に関する事項</p> <p>・一般排水に関する事項</p> <p>○地域特性</p>	<p>指摘事項等</p> <p>・石炭を燃料とした、最新の発電技術である超々臨界圧（USC）発電技術を導入する出力約107万kWの火力発電施設を設置する計画であること。</p> <p>・JFEスチール(株)東日本製鉄所で発生する副生ガスを混焼する計画であること。</p> <p>・排ガス量は副生ガス混焼時約350万m³N/hの計画であり、硫黄酸化物の排出量が約49m³N/h、ばいじんの排出量が約18kg/hであること。</p> <p>・冷却水は、対象事業実施区域の南側から深層取水し、水量約45m³/sの温排水を対象事業実施区域の西側から表層放流する計画であること。</p> <p>・一般排水は、新設する排水処理設備により処理を行った後、東京湾へ排水する計画であること。</p> <p>・石炭は、JFEスチール(株)が所有する揚炭機を使用して船からの揚炭を行う計画であること。揚炭した石炭は、新設する密閉構造のベルトコンベア及びJFEが所有する既存の防じんカバー付きベルトコンベアにより輸送し、密閉構造の貯炭場で保管する計画であること。</p> <p>・施設の供用に伴い発生する石炭灰は、密閉式の貯蔵サイロに保管し、セメント原料等として全量有効利用する計画であること。</p> <p>・対象事業実施区域は埋立地であり、都市計画法に基づく工業専用地域となっており、JFEスチール(株)東日本製鉄所（千葉地区）の敷地内にあること。</p> <p>・対象事業実施区域の近傍には、大気汚染の影響による疾病が発生しているとして、公害健康</p>

		<p>被害の補償等に関する法律の第一種地域の指定を受けていた地域があること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域は、大気汚染防止法に基づく硫黄酸化物総量規制指定地域内にあり、硫黄酸化物の排出低減の取組がなされてきた地域であること。 ・対象事業実施区域は、閉鎖性水域である東京湾に接する水質汚濁防止法に基づく汚濁負荷総量規制指定地域内にあり、汚濁負荷量の排出低減の取組がなされてきた地域であること。 ・対象事業実施区域周辺は、降下ばいじん量が千葉市内の他地域と比べて多く、粉じんに対する苦情が寄せられていること。 ・対象事業実施区域は、京葉工業地域にあり、立地する主要工場と県及び市の3者は、環境保全協定を締結し、環境の保全を図っていること。 ・対象事業実施区域は蘇我スポーツ公園に隣接すること。 ・対象事業実施区域周辺には、既存の火力発電所が稼働している他、県内では、本計画の他にも、石炭火力発電所の建設計画が進められていること。
<p>2.2-8</p>	<p>○事業の目的、内容 ・ 全般的事項</p> <p>・ 発電用燃料の種類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画の詳細の検討に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を収集、整理し、最良の利用可能技術の導入について検討し、各環境影響評価項目に係る予測及び評価の結果も踏まえ、事業実施による環境への負荷をできる限り回避又は低減する計画とすること。【事】 ・ 使用する燃料について、有害物質含有量の少ない良質な石炭を選定するとともに、その調達先、組成等を明らかにすること。【事】
<p>2.2-9</p>	<p>・ ばい煙に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ばい煙処理設備について、実行可能な最高水準の技術を用い、環境負荷を可能な限り低減するとともに、その諸元を明らかにすること。【事】
<p>2.2-11</p>	<p>・ 一般排水に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般排水の処理工程について、処理の方法を具体的に明らかにするとともに、受入れから放流に至る各段階における水量・水質を明らかにすること。【事】

2.2-16	・その他の事項（工事中の排水、濁り）	<p>・浚渫工事における汚濁拡散防止対策の具体的な内容を明らかにし、準備書に記載すること。 【事】</p>
2.2-16	・その他の事項（産業廃棄物）	<p>・当該事業から発生する石炭灰の継続的な再資源化の実現可能性について、セメント原料以外の有効利用方法も含めて検討し、具体的に示すこと。【委】 【委員：石炭灰についてどのように処理をするのか。セメント以外の利用方法を考えているか】</p>
2.2-17	・その他の事項（残土）	<p>・浚渫工事に伴う発生土について、有害物質による汚染の可能性があることから、試料分析を行う計画とすること。また、分析結果に基づく適切な処理方法について検討し、具体的に示すこと。【事】</p>
2.2-17	・その他の事項（温室効果ガス）	<p>・地球温暖化対策に係る国内外の動向を踏まえ、長期的な温室効果ガス排出削減対策について、緑化や再生可能エネルギー導入等も含めて検討を行い、その結果を準備書に記載すること。 【委】 【委員：再生可能エネルギーの検討、代償措置等も含め、このプラントをどのように活用し、温室効果ガスの収支を立てていくのか、長期的なスタンスを示してほしい。】</p> <p>・温室効果ガスの排出削減技術について、国の検討状況や技術開発状況等を踏まえ、将来における二酸化炭素分離回収設備などの導入に向け、施設配置も含めて検討を行うとともに、検討経過及びその内容を明らかにすること。【事】</p> <p>・エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和54年法律第49号）に係るベンチマーク指標の達成のための取組計画について、具体的に根拠をもって示すこと。【事】</p> <p>・電力業界が策定した「電気事業における低炭素社会実行計画」の自主的枠組みに沿う形で温室効果ガス排出削減に取り組むとしていることから、実行計画の目標達成に向けた具体的な仕組み及び内容を明らかにするとともに、本発電施設における対応方法についても具体的に記載すること。【事】</p> <p>・施設稼働後の温室効果ガス排出量監視計画について検討を行い、準備書に記載すること。また監視結果の公表の仕方についても検討するこ</p>

		<p>と。【委】 【委員：CO₂排出量について、長期的な視点でモニタリングを行う必要がある】 ・事業場における省エネルギー策及び自らのエネルギー消費による温室効果ガス排出量について明らかにすること。【事】 ・バイオマス燃料の混焼等の検討状況について、具体的に示すこと。なお、バイオマス燃料を混焼する計画とする場合は、国産燃料を極力用いる計画とすること。【委】 【委員：国産木材を活用できる技術を検討いただきたい】</p>
<p>7.2-3 7.2-4</p>	<p>○配慮書からの検討経緯 ・配置計画 ・取放水設備 ・煙突高さ配慮書B案（190m）</p>	

ページ	方法書の記載概要	指摘事項等																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	<p>環境影響評価の項目（第6章）</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
6.1-1	<p>○環境影響評価の項目</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
6.1-6	<p>マトリックス表</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">影響要因の区分</th> <th colspan="2" rowspan="2">環境要素の区分</th> <th colspan="2">工事の実施</th> <th colspan="5">土地又は工作物の存在及び供用</th> </tr> <tr> <th>工事用資材等の搬出入</th> <th>建設機械の稼働</th> <th>造成等の施工による一時的な影響</th> <th>地形変化及び施設の存在</th> <th colspan="2">施設の稼働</th> <th>資材等の搬出入</th> <th>廃棄物の発生</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>排ガス</th> <th>排水</th> <th>温排水</th> <th>機械等の稼働</th> <th colspan="5"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素</td> <td rowspan="5">大気環境</td> <td rowspan="5">大気質</td> <td>硫黄酸化物</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>窒素酸化物</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>石炭粉じん</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>粉じん等</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>重金属等の微量物質</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="3">騒音振動その他</td> <td>騒音</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>振動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>低周波音</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="4">水環境</td> <td rowspan="4">水質</td> <td>水の汚れ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>富栄養化</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水の濁り</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水温</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="2">底質その他</td> <td>有害物質</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>流向及び流速</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他の環境</td> <td>地形及び地質</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素</td> <td rowspan="2">動物</td> <td>重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く。）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>海域に生息する動物</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">植物</td> <td>重要な種及び重要な群落（海域に生育するものを除く。）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>海域に生育する植物</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>生態系</td> <td>地域を特徴づける生態系</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素</td> <td>景観</td> <td>主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人と自然との触れ合いの活動の場</td> <td>主要な人と自然との触れ合いの活動の場</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素</td> <td rowspan="2">廃棄物等</td> <td>産業廃棄物</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>残土</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>温室効果ガス等</td> <td>二酸化炭素</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：1. 「○」は、環境影響評価の項目として選定する項目を示す。 2. ■は、発電所アセス省令第21条第1項第2号に定める「火力発電所（地熱を利用するものを除く。）別表第2」に掲げられる「参考項目」を示す。</p>	影響要因の区分		環境要素の区分		工事の実施		土地又は工作物の存在及び供用					工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形変化及び施設の存在	施設の稼働		資材等の搬出入	廃棄物の発生			排ガス	排水	温排水	機械等の稼働						環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	硫黄酸化物					○					窒素酸化物	○	○			○					浮遊粒子状物質	○	○			○				○	石炭粉じん										粉じん等	○	○							○			重金属等の微量物質				○						騒音振動その他	騒音	○	○					○	○	振動	○	○					○	○	低周波音							○			水環境	水質	水の汚れ					○				富栄養化						○			水の濁り		○	○						水温						○				底質その他	有害物質		○							流向及び流速				○		○				その他の環境	地形及び地質									生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く。）									海域に生息する動物				○					植物	重要な種及び重要な群落（海域に生育するものを除く。）									海域に生育する植物				○					生態系	地域を特徴づける生態系									人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					○				人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○							○	環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	産業廃棄物			○					○	残土			○							温室効果ガス等	二酸化炭素					○				<p>・微小粒子状物質について、予測手法及び対策に係る今後の動向を踏まえ、必要な調査、予測及び評価を行うこと。【事】</p> <p>・環境影響評価の項目として、石炭粉じんが選定されていないが、多量の石炭を取り扱う計画であることから、発じんのおそれがある。については、石炭の揚炭から保管、粉砕及び投入に至る一連の工程について、使用計画及び設備の構造を具体的に明らかにするとともに、石炭粉じんの環境影響について改めて検討し、飛散のおそれがある場合には、調査、予測及び評価すること。【事】</p> <p>・対象事業実施区域の土地利用履歴について、具体的にどのような作業、工程において使用されていたかを明らかにすること。また、土壌が汚染されている可能性について検討したうえで、必要に応じて土壌を評価項目に加えること。【事】</p>
影響要因の区分						環境要素の区分		工事の実施		土地又は工作物の存在及び供用																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形変化及び施設の存在			施設の稼働		資材等の搬出入	廃棄物の発生																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		排ガス	排水	温排水	機械等の稼働																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	硫黄酸化物					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																
			窒素酸化物	○	○			○																																																																																																																																																																																																																																																																																																
			浮遊粒子状物質	○	○			○				○																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			石炭粉じん																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
			粉じん等	○	○							○																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			重金属等の微量物質				○																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		騒音振動その他	騒音	○	○					○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	振動		○	○					○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	低周波音								○																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		水環境	水質	水の汚れ					○																																																																																																																																																																																																																																																																																															
富栄養化								○																																																																																																																																																																																																																																																																																																
水の濁り				○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
水温								○																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	底質その他	有害物質		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
流向及び流速					○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	その他の環境	地形及び地質																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く。）																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		海域に生息する動物				○																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	植物	重要な種及び重要な群落（海域に生育するものを除く。）																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		海域に生育する植物				○																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
生態系	地域を特徴づける生態系																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○							○																																																																																																																																																																																																																																																																																														
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	産業廃棄物			○					○																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		残土			○																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	温室効果ガス等	二酸化炭素					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
6.1-7	<p>○選定の理由</p> <p>選定の理由 第6.1-3表</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
6.1-10	<p>選定しない理由 第6.1-4表</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

ページ	方法書の記載概要	指摘事項等
	<p>調査・予測及び評価の手法（第6章） ○全般的事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価の実施に当たっては、各活動要素及び環境要素に係る影響について改めて検討した上で環境影響評価項目を適切に選定し、最新の知見を基に、調査、予測及び評価を定量的に行うとともに、具体的な環境保全措置の検討を行うこと。【事】 ・各項目の調査地点、調査期間、予測地点及び予測対象時期について、設定した根拠を具体的に明らかにすること。【事】 ・県内では、複数の火力発電所の設置が計画されており、供用時における大気環境、水環境、海生生物等への重畳的な影響が懸念されることから、重畳を踏まえた予測に必要な情報の収集に努めるとともに、予測及び評価に当たっては、これに配慮すること。【委】 <p>【委員：他の火力発電事業等との複合的な影響についても考慮いただきたい】</p>
<p>6.2-2 6.2-4</p>	<p>○大気質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硫黄酸化物（施設の稼働（排ガス）） ・窒素酸化物（資材の搬出入等、建設機械の稼働、施設の稼働（排ガス）） 	<ul style="list-style-type: none"> ・混焼する副生ガスの成分、貯留方法、混焼方法及び使用頻度等を明らかにしたうえで、排ガスによる大気質への影響について予測及び評価すること。【事】 ・大気質の予測について、気象条件、周辺建物の状況、バックグラウンド濃度等の各種条件の設定方法及び、窒素酸化物濃度の換算手法等の予測手法を具体的に明らかにすること。またその妥当性について検証を行うこと。【事】 ・対象事業実施区域の周辺には住宅地が存在しており、また蘇我スポーツ公園が隣接していることから、これらの施設の大気環境への影響が懸念される。については、これらの施設への影響について適切に予測・評価すること。【委】 <p>【委員：対象事業実施区域に隣接する蘇我スポーツ公園やサッカー場への影響はどうか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域周辺には複数のマンション等が立地していることから、これらのマンション等の配置及び高さの把握に努め、高層階への影響についても検討を行うこと。【事】 ・高層気象の現地調査について、対象事業実施区域から離れた地点で実施することから、調査地点の妥当性を示すこと。また内陸の調査地点の調査期間を春季及び夏季のみとしたことにつ

<p>6.2-10 6.2-16 6.2-19 6.2-20</p>	<p>・SPM（資材の搬出入等、建設機械の稼働、施設の稼働（排ガス）） ・粉じん等（資材の搬出入等、建設機械の稼働） ・重金属等の微量物質（施設の稼働（排ガス）） ・大気質調査位置 第6.2-1図（1）～（3）</p>	<p>いて、妥当性を示すこと。【事】 ・本計画に伴い運航する船舶の規模、入港頻度について、準備書に記載すること。また船舶の排ガスが大気へ及ぼす影響について検討し、必要に応じて予測・評価を行うこと。【委】 【委員：どの程度の頻度でどの程度の規模の船舶が来るのか、船舶からの大気汚染物質の影響はないのか】 ・使用を予定している石炭に含まれる重金属等の微量物質を明らかにし、各物質の大気への飛散の可能性について検討すること。またその結果を踏まえ、評価対象とする物質を適切に設定すること。 【委員：水銀以外にも同族元素のカドミウム、亜鉛等が飛散する可能性がある】</p>
<p>6.2-24 6.2-28 6.2-32 6.2-33</p>	<p>○騒音、振動 ・騒音（資材の搬出入、建設機械の稼働、施設の稼働） ・振動（資材の搬出入、建設機械の稼働、施設の稼働） ・低周波音（施設の稼働） ・騒音、振動、低周波音調査位置第6.2-1図（4）</p>	<p>・対象事業実施区域の周辺には住宅地が存在しており、また蘇我スポーツ公園が隣接していることから、これらの施設への騒音の影響が懸念される。については、これらの施設への影響について適切に予測・評価すること。【事】</p>
<p>6.2-34 6.2-35 6.2-36 6.2-38</p>	<p>○水質・底質 ・水の汚れ（施設の稼働（排水）） ・富栄養化（施設の稼働（排水）） ・水の濁り（建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響） ・水温（施設の稼働（温排水））</p>	<p>・排煙脱硫装置の污水に重金属等の有害物質が含まれる可能性があることから、有害物質の排水への混入の可能性について検討するとともに、必要に応じて海域及び底質への影響を予測及び評価すること。【事】 ・工事中の排水について、水量、水質等の諸元、排水処理工程及び処理後の水質を明らかにし、海域への影響を予測及び評価すること。【事】 ・温排水による海域への影響について、放水口の形状、深度及び放水流速等の諸元を明らかにしたうえで、季節別の海水温及び流況等を踏ま</p>

<p>6. 2-40 6. 2-41 6. 2-42</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有害物質（建設機械の稼働） ・ 流況及び水温（施設の稼働（温排水）等） ・ 水環境調査位置 第 6. 2-2 図（1）（2） 	<p>えて適切に予測及び評価すること。【事】</p>
<p>6. 2-44 6. 2-47 6. 2-48 6. 2-50</p>	<p>○動植物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海生動物（施設の稼働（温排水）等） <p>○その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海生動物調査位置 第 6. 2-3 図 ・ 海生植物（施設の稼働（温排水）等） ・ 海生植物調査位置 第 6. 2-4 図 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復水器の冷却水に次亜塩素酸ソーダ等の薬剤を注入する計画の有無について明らかにすること。注入を計画しているのであれば、使用する薬剤や注入量の管理手法等について明らかにし、放流先海域や取水する海水中に生息する、稚仔魚や卵等を含む海生生物に与える影響について予測及び評価すること。【委】 【委員：冷却水への次亜塩素酸ソーダの注入の計画について説明いただきたい】 ・ 動物プランクトン、植物プランクトンの分布パターンは潮の満ち引きの影響を受けることが想定されることから、調査に当たっては潮汐の影響に留意すること。【事】 ・ 魚類等への温排水の影響を評価する際には、遊泳性を有することのみをもって影響はないとするのではなく、調査結果及び文献等を踏まえ適切に評価すること。【委】 【委員：環境は抱えられる生物量（環境収容力）が決まっており、他で住めなくなった生物が新しい生息地に無条件で入れるわけではない】
<p>6. 2-51 6. 2-52 6. 2-53 6. 2-55 6. 2-56 6. 2-56 6. 2-56</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観（地形改変及び施設の存在） ・ 主要な眺望点等の位置 第 6. 2-5 図 ・ 人と自然との触れ合い活動の場（資材等の搬出入等） ・ 人触れ調査位置 第 6. 2-6 図 ・ 廃棄物等（造成等の施工による一時的な影響、廃棄物の発生） ・ 残土（造成等の施工による一時的な影響） ・ 温室効果ガス等（施設の稼働（排ガス）） 	

ページ	方法書の記載概要	指摘事項等
7.1-6 ～ 7.1-13	<p>その他（配慮書知事意見への事業者見解等）</p> <p>○配慮書知事意見への事業者見解</p>	
7.1-34	<p>○配慮書一般意見への事業者見解 ・102通（280件）</p>	
	<p>○その他</p>	<p>・環境影響評価図書をインターネットの利用により公表するに当たっては、印刷を可能とすることや、縦覧期間後も閲覧できるようにするなど、利便性の向上に努めること。【事】</p>